

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 3年 1月 26日

公表: 令和 年 月 日

事業所名 多機能型 ランランランド

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標 ・工夫している点
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	5	1	機器のお預かりや車いすの置き場所を考え自由なスペースを広くとるようにしています。
	2	職員の配置数は適切である	5	2		基本的には利用者よりも多くスタッフを配置しています。少ない時でもマンツーマンでの対応ができる配置数にしています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	4		入口等に小さな段差がございますが、スタッフみんなで協力し負担を軽減しています。また送迎時では車いすのまま乗車できるようにしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	3	1	毎日の掃除・清掃・消毒を欠かさず行っています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		2	毎日ミーティングを行い、振り返りをし課題に対しての改善に努めています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		2	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3	2	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4	3	現段階では外部評価までは行えてないが、本社と検討中です。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	1	職員同士での他職種の勉強会を行っております。また他施設への研修や勉強会へ参加をしています。
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		2	看護師、リハビリ、保育士と各専門的視点で分析し要望に合わせた計画書を作成しています。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2	3	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		3	保護者からのアセスメントを聴取すると共に、児童の個性や可能性を各専門的視点で支援計画を設定しています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		1	支援計画に沿って行っています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	2	スタッフ一同で話し合いプログラム立案を行っています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		2	子ども一人ひとりに合わせた活動プログラムを行っています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	5		2	子ども一人ひとりの能力や個性に合わせ、集団や個別での活動を計画しています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			毎朝ミーティングを行い、支援内容の確認・役割分担を図っています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	2	援終了後には行っていないが、毎朝のミーティング際に振り返りを行っています。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		1	毎朝のミーティングの際に支援記録を記載しています。	

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		3	子どもの状態に合わせて計画を見直しています。
----	---------------------------------------	---	--	---	------------------------

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	1	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	1	2	今後検討しています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	2	2	今後検討しています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	1	2	指示書や情報提供書の依頼や地域連携室との連絡をとっています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3	2	現在幼児期の年齢の子どもは学校へ通っていない。今後ある場合は検討します。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3	3	送迎時に情報を共有しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	1	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5		2	スタッフと共に公園散歩を行った際に地域の子供達と一緒に楽しんでいます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		2	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		1	送迎時に情報を共有しています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	3	3	保護者からの申し出があった場合のみ、各職種にあったものが送迎時や連絡ノートを活用し伝達しています。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	2	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	3		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2	1	保護者から相談があった場合は迅速に助言や支援を行っています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5	2	今後検討しています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		1	保護者とのコミュニケーションを図り、相談があった際にはスタッフ全員で認識し迅速に対応しています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		2	毎月子ども様子を文面と写真でお知らせをしています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		1	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5		2	こちらから、近隣の商店街や公園へ向かい地域住民に認知されるよう事業運営を図っています。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2	1	マニュアルを作成しており職員間での周知は図っている。保護者の方には契約時や面会時に説明していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	5	1	今後検討しています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		1	保護者からの情報や主治医からの指示書により確認をしています。また服薬も必要に応じて預かりをしています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		2	主治医からの指示書を依頼しています。またご家族への確認を行っています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		1	ヒヤリハット報告書の作成、スタッフ間での共有をしています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1	2	虐待防止の研修会を事業開始時に行っています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	1	4	身体拘束の目的では行っていませんが、必要に応じてベルトでの固定を行っています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。